

2018年9月27日

FX取引に関する顧客アンケート結果を踏まえて

神戸大学教授 岩壺健太郎

外国為替証拠金取引（以下、FX取引）についてどのようなイメージをお持ちだろうか。「リスクが高くて多額の損失を被りそう」というネガティブなイメージをお持ちの方がいれば、反対に「投資額の何倍もの取引が出来るので楽に儲かる」とポジティブなイメージを持っている方もおられるだろう。

今や日本のFX取引市場は世界最大の規模に拡大している。個人投資家の広がり是一般の主婦の間にまで普及し、海外のメディアや市場参加者からは“Mrs. Watanabe”の通称で呼ばれたりするほどである。投資セミナーでは株式と比べて女性や若者の参加比率が高いのもFX取引の特徴である。それほどにFX取引は気軽にできる運用ツールとなっている。

しかし、FX取引によってどれほどの利益を上げ、どれほど損失を出しているのか、どのような投資手法が用いられているのかなど、個人投資家の実態はあまり知られていない。本稿では、金融先物取引業協会が2018年4月に行った「外国為替証拠金取引の取引顧客における金融リテラシーに関する実態調査」の調査結果を紹介しながら、個人投資家がFX取引をどのように利用すれば資産形成につながるかを紹介したい。

このアンケート調査では、現在FX取引を行っている全国20代から70代の一般男女を対象に、前回調査から分かったFX経験者の出現率に近づけるように性別・年代別の構成をあらかじめ定め、合計1,000人を調査対象に選んでいる。その結果、男性は76.3%、女性は23.7%、年齢別では30代・40代が最も多く、それぞれ33.0%、28.7%となっている。

FX取引による昨年（2017年）の損益額は、「利益額が20万未満」が最も多く35.6%で、「利益額が-20万から20万」の間に全体の64.0%が集中している。また、利益を上げている投資家の割合は60.3%と過半数の投資家が年間でプラスの利益を上げている。

金融庁が7月に発表した「2018年3月末時点で投資信託を保有する個人投資家の半数近くが損失を抱えている」というニュースは大きな衝撃を与えたが、リスクが高いといわれているFX取引で年間を通じて利益を出している個人投資家が多いことは注目に値する。

男女別で見ると、男性の60.9%が利益を上げており、女性の58.2%を上回っている。特筆すべきは女性のなかで男性平均を上回っているのは60代から70代の女性で、62%が利益を上げていることである。60代から70代の男性は約半数（50.5%）が損失を出しているのと対照的な結果となった。職業別でいうと役員・管理職（73.8%）がカテゴリー別で最も利益を上げており、世帯年収別では200万未満の世帯の34.5%しか利益を上げられず、損失が最も多いカテゴリーとなった。

では、FX投資家はどのような取引を行っているのだろうか。新規取引1回当たりの平均

的な取引金額は 10 万未満が 42.8%に上っており、小額投資が大半である。とはいえ、FX 取引は預け入れた証拠金額の最大 25 倍の投資が可能である。どのくらいのレバレッジ倍率で取引をしているのかについては、5 倍未満という回答が 38.1%で、20 倍から 25 倍という回答 (22.7%) をはるかに上回っている。投資家の多くはハイリスクを狙わずに、ローリスクな投資を心がけているといえよう。

興味深いのは、利益を上げている割合が多い 60 代から 70 代の女性はレバレッジ倍率が極めて低く、62%が 5 倍以下のレバレッジに抑えているのに対し、利益を上げている割合が最も低かった世帯年収が 200 万未満の投資家は平均的にレバレッジ倍率が高く、26.4%が 20 倍から 25 倍のレバレッジで投資していることである。高いレバレッジ倍率で高収益を上げる投資家もいるので、レバレッジ倍率が高いと利益が低下するというような関係は見られないが、投資スキルが未熟だと高レバレッジは大きな損失をもたらす可能性が高いことを念頭に入れるべきであろう。

新規ポジションの平均的な保有期間については、「1 日以上 1 週間未満」保有している投資家が 21.3%と最も多く、次いで「1 週間以上 1 ヶ月未満」(16.1%)、「1 時間以上 1 日未満」(16.0%) がほぼ同程度であった。男女別では、「1 ヶ月以上」保有している層の比率は女性が男性よりも高く、男女とも高齢になるほど長期投資の比率が高くなっている。今回の調査からは長期投資と短期投資のどちらの利益額が高いかについて、明確な結論は得られなかった。

一般的に、ポジションの保有期間とレバレッジ倍率の間には、短期投資は高レバレッジ、長期投資は低レバレッジという傾向が見られる。長期投資は資金をリスクにさらす期間が長いのであまりレバレッジを高めることができず、反対に短期投資は失敗してもすぐに損切りが可能なのでレバレッジを高めることができる。日足や 4 時間足といった長期のチャートでの為替変動は 1 分足や 5 分足といった短期のチャートよりもトレンドが持続しやすいので予想しやすい。そのため、「低レバレッジの長期投資」が初心者向きで、「高レバレッジの短期投資」が上級者向きであることは良く知られている事実である。

売買の勝率が良くても 1 回の大きな損失で収益が大きく悪化するという経験は誰もが経験したことがあるだろう。損失を小さくして利益を大きくする、いわゆる「損小利大」を目指すなら「逆指値注文」の利用が欠かせない。実際、アンケート結果によると、逆指値注文を使用しないと答えた男性の割合は 35.1%に過ぎないが、女性の割合は 48.5%にも及んでいる。逆指値注文を使って損切りをするかどうかは男女の収益額の違いに反映されている可能性が高い。行動経済学では「損失回避」といって、人は得をするより損をしたくないという気持ちが強く、含み損が膨らむとますます損切りをためらうようになる。自発的に損切りできなくなるほど含み損が膨らむ前に、「逆指値注文」を使って機械的に損切りすることを心掛けるべきである。

最後に、FX 取引で利益を出す（時には損失を出すこともあるが、総じて利益を出す）ことができる投資手法を会得しているかという問いに対して、「会得している」と回答したの

は40%で、反対に60%の投資家は「会得していない」と回答している。過半数を超える投資家が自分なりの投資ルールなくFX取引を行っているならば問題であろう。

超短期投資のスキアルピングから、1日以内のデイトレ、1週間以内のスイングトレード、1週間以上の長期投資まで、それぞれの保有期間に応じて、先人たちが積み上げてきた投資手法の知見がある。自分の投資環境や能力に見合った投資手法を身につけ、総じて利益が出るまではデモトレード等で練習して、投資スキルを上達させる必要がある。ファンダメンタル分析やテクニカル分析など、単に知識の習得だけでなく、理解したことを実践できるまで練習することの重要性はこれまでの投資教育ではあまり語られてこなかった。投資を成功確率の低いギャンブルと同類にしないためにはたゆまぬ努力が不可欠なのである。

以上